

飛騨牛繁殖、担い手目指す

研修センター、1期生入所 美濃加茂市

岐阜大、JA全農岐阜、県の産官学連携で飛騨牛繁殖の担い手を育成する「飛騨牛繁殖研修センター」の1期生の入所式が7日、美濃加茂市牧野の岐阜大付属美濃加茂農場内の同センターで開かれた。研修生3人が「より早く自分が理想とする牛飼いになれるよう励む」などと決意を示した。(山田孝二)



決意を示した色紙を掲げる1期生＝美濃加茂市牧野飛騨牛繁殖研修センター

同センターは、同農場内に牛舎や堆肥舎などを整備し、昨年3月に開設。3者による連携協議会が運営。昨年度に開始した繁殖雌牛増加を目指す繁殖事業に続き、県内への新規就農者育成を図る研修事業をスタートさせた。繁殖農家の高齢化などによる担い手不足、子牛頭数減少に対応する。

1期生は愛知県出身の大島芹奈さん(25)、大阪府出身の岡山直人さん(27)、京都府出身の田中敦さん(59)。いずれも仕事をやめ、県内での新規就農を志し、2年間の研修に臨む。入所式では一人一人が「一貫」などと決意を示した色紙を掲げ、抱負を語った。

連携協議会会長の福井博一(岐阜大副学長は「3者で連携し、新たな生産者を育

成したい」と話した。1期生は実習を中心に分娩や飼料の生産、経営管理などを学び、繁殖農家に必

要な技能や知識を身に付け、連携協議会は就農まで一貫した支援を行う。毎年2人程度を募集する。